



増林地区コミュニティ推進協議会のシンボルマークです。

# ましばやし コミ協だより

増林地区コミュニティ推進協議会ホームページのURL [http://homepage3.nifty.com/mashibayashi\\_comi/index.htm](http://homepage3.nifty.com/mashibayashi_comi/index.htm)

発行/増林地区コミュニティ推進協議会 ☎343-0011 越谷市増林2丁目82番地 増林地区センター内 ☎962-2855

## 農家の人が架けた中島橋 (旧荒川橋)

中島橋は、増林から中島地区を通る県道東京平方線の元荒川にかかる橋で、大相模や吉川と増林を結ぶ要所です。建設されたころは荒川橋と呼ばれていました。昭和初期の増林村(東小川、花田、増森、増林、中島)は、吉利根川、元荒川と相模を川に囲まれ、村外に出かけるにはとても不便なところでした。中島は地名にも示されるように、二つの川が交流した中川から上流を見ると島のように見える、中島(耕地)と言われており大変肥沃な土地で昔から野菜(ねぎ)作りが盛んなところでした。生産された野菜を



▲現在の中島橋

出荷するには東京方面に販売することが有利なので、交通手段として元荒川を渡らなければなりません。当時、増林村で元荒川に架かる橋は、平和橋(現在のではなく藤田病院の近くにあつた)だけで、人々が大相模方面に出かけるには中島の渡し舟で吉川に行き、吉川橋(旧徳江橋)を渡り、大相模方面へ出かけたということ。中島には商家が建ち並び、料亭もあつた。そこで不便なところを改めようと、地元の名士の有志が自ら資金を出し、県との交渉の末橋を架けたそうです。四名の方々は、鈴木吉五郎氏、杉山末吉氏、内野清衛門氏、内野勝太郎氏、です。杉山末吉氏の子に当たる杉山邦三郎氏の話によると、建設は昭和五年、工費は九百円でリヤカーもすれ違いができ、自動車



▲中島と増森新田で交わされた覚え書き 山崎孝二氏所有



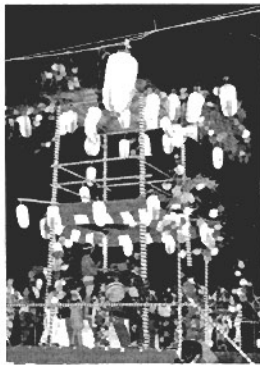
▲竣工記念の石碑

も通れたと言ふ木造の橋でした。橋の近くに小屋を立て、通行料を取っていたといふます。料金は片道二銭、往復三銭、荷車五銭だったそう。また中島地区と増林地区の人々はいつでも通ることができたそうです。昭和十三年ごろまで通行料を取り、その後は管理を県の方に任せたと。現在の中島橋は、三代目です。昔から橋は人々の暮らしと密接な関係にあります。その重要な橋を四名だけで造り、地域の発展に貢献したと言ふことを、今日の人々は広く認識しなければならぬと思ひます。

## 自治会紹介

### 東越谷二丁目自治会

越谷市のシンボルである元荒川にかかるしらこぼと橋の袂、ぼたん公園に隣接したすこぶる環境のよい場所に東越谷二丁目自治会館があります。年月の経過するものも早いもので今年で第三十三回目の総会を迎えることになりました。昭和四十八年四月東越谷二丁目自治会設立総会を開催し、同六月

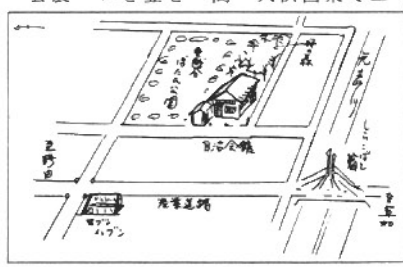


▲安全のための鉄骨橋

には、子供会育成会も結成され、念願でありました自治会館も同九月に落成されました。年々会員数の増加に伴い、昭和六十一年三月には会館の増改築と鉄骨造りの大型倉庫も完成し現在に至っております。スポーツ場においては、増林地区体育祭を始めソフトボール大会、バレーボール大会等のすべの大会に参加し、好成績を残しております。二丁目自治会独自のボウリング大会、運動会、ソフトボール大会、ビーチボール大会等の行事をこなしております。

文化面においても昭和四十九年より町内親睦旅行会を続けており、昭和五十三年には、手作り神輿と山車を業人員が夜間で六ヶ月以上かけて作成し、独自の祭礼を、実施、新聞、広報等、県下で注目を浴びました。町内納涼祭は年々会員相互の人氣も増大し、ますますにぎやかになり、舞台橋は機能性、安全性に万全を期するため鉄骨構造にしました。多くの模擬店、来賓席もテントは使用せず、ヨシズ造りで夏の風流を一層かもし出しております。子供たちで結成した越谷飛翔太鼓も年々

人氣が上昇し、他町会からも会員の参加希望が増えて技術も加わり、県下公共事業所、福祉団体等から引張りださず。すまよい街づくりを目指し交通安全運動への協力、街路灯の設置、修理や学童補導および登下校時の安全誘導等防犯防災に心がけています。また地区内二ヶ所の公園では、美観対策として年三回自治会・子供会・福寿会・老人会(福寿会)の老若男女間で、草取り、砂場の整備を行い生活の豊かさと親睦を盛り上げています。まだまだ発展途上の自治会です。



## 祝成人

多くの災害にまわられた平成十六年も明けた一月九日(日)、新成人を祝う式典が東中学校体育館に例年通り開催されました。増林地区は例年通り新成人・地域各団体による実行委員会のかたちで行われ、百二十名の新成人が参加されました。式典後の茶話会では豪華商品の抽選会や中学卒業時に撮ったビデオレターを見ながら恩師の先生方・友との懐かしい語らいのひとときを過ごしていました。大人の仲間入りをした新成人の皆さん、当日の天候のように晴れやかな人生を送られる事を願っています。



三浦 隆 浩  
成人式の当日は、式典の実行委員会だったので少し早めに母校の越谷東中学校に行きました。式が始まるまでは、少し緊張しましたが懐かしい顔をみても中学校時代を思い出しました。式典が終わった後は、中学時代の恩師に会い昔の話をしたり、友人と写真を撮ったりと、楽しい時間を過ごしました。二十歳の誕生日を迎えても自分の中で何も変わらなかつたけど、こうして成人式を終えたとやほり成人という立場を実感しました。そして何よりもたくさんの方々に感謝とこの日を一緒に迎えられることをとてもうれしく思います。



浅田 奈那子  
成人式を迎えた一月九日、私はとてもすがすがしい気持ちで迎えました。大人への第一歩であり、自分が二十歳になったことへの自覚を深く胸に感じ取りました。また、懐かしい母校で先生や友達に再会したことで中学の頃に戻ったようでした。一方で親や先生、友達がいたらこそこの日を迎えることができたのだと実感しました。私たちはこれから新しい未来へと進んでいきますが、これからも初心の心を忘れずに成長し、いつかまたみんなそろって笑って集まれる日が来ればいいなと思います。

# 増林在住の『あの人、この人』と題し『昔日の思い出』

今回は永年保護司として活躍され勲五等瑞章を受章されました豊田宗一さん(昭和二年九月十日生れ 七十七歳)に投稿をお願い致しました。



豊田宗一 広報部役員さん

投稿依頼に答えるべくペンを取り、さて何を書こうかと迷いふと、子供の頃を思い出す。十年ひと昔の時代からは、一年ひと昔の感がある。私の小学校時代七十も前だが、現在の体育館・野球場・ゆりのき荘辺りは広大な田圃、そこに冬ともなると雁の群れが数百羽も舞い降り落穂を啄んでいた。あれを追ってばっかしてこい!と、上級生の飢鬼大将に面白半分につけつけられたが、今では雁の飛んでいるのを見たことがない。公民館発足は何時頃かな? 戦後の民主化の先駆けで現自治会長は分館長と呼んだ時もあった。従来行われていた二月の正月が一月になったのもこの頃と記憶している。当時は青年団活動も活発で、団員も数百人男女ほぼ同数に数えられた。産めよ増やせよの時代、どこの家でも五・六人は普通、中には一ダースの子沢山もあつた。

## 視察研修 房総のむら

やつと春の到来を待つて、恒例の視察研修が三月十三日(日)、二十三名の参加で実施されました。とても良い所だったので視察地を紹介したいと思えます。まさに、陽春の中、国道一六号線根水郷アイン、三五六号線を通り、約一時間四〇分程で千葉県印旛郡栄町にある「体験博物館房総のむら」に到着。「三七〇」ものプログラムで丸一日楽しめる博物館と宣伝されているように、「むら」の広大な土地を「ふるさとの体験エリア」と「歴史と自然を学ぶ風土記の丘エリア」に分け、伝統的な生活様式や技術を来館者が直接体験すると共に、県内各地から出土した遺物や、武家・商家・農家の展示を通して歴史を学ぶことを目的としております。さあ、案内所を通って左手に続く商家の町並みを覗いてみよう! ここは佐原市等に残留の古い町並みを参考に、商家十六棟と稲荷境内等で構成され、その時代の町人になった気分をめし屋・お



▲古い町並み体験博物館

だけ。農業以外の産業や職場も少なく食糧増産の国策に躍らされ、労働力の一助となる。青年団事業活動の運動会、その一種目に仮装行列を加えた事もある。物も経験も無いまま工夫をこらし、男が女に、女が男に愛され、また中には原始人を真似て全身真っ黒に煤を塗り、頭には、赤・青・黄色の竹槍を振りかざし数十人が練り歩く。良くぞやつたと今思い出して苦笑せざるを得ない。その後、町村合併論が浮上、賛否両論の増林村議会開催の中、青年団員数十名が押しかけ、賛成派に拍車をかけた思い出が残る。間もなく町となり現越谷市へと進んだ。また青年学校が開講される。講師は中学の先生方、当時英語は、敵国語として禁止、簡単なABC、ローマ字の常識問題等を勉強する。NHKラジオ放送「青年学校の友へ」と題して電波に乗った事もある。また公民館事業の産業部で地区内全域の地場産業発展の共進会が度々行われた。一例が茄子漬菜、苗代の競争などがあった。審査の一員として数回参加させられたが花田地区の金子さんの例年の野菜の見事な出来栄が今も記憶に残っている。

十六年度総会の計画案に沿って、十八名の部員で月一回の定例会を開催しながら、事業を推進してまいりました。今年度は公民館の地区センターの移行や、夏秋の埼玉国体等、市を挙げての行事が山積する中で活動でしたが、地区住民の協力で無事終了することができました。部会が担った主な事業は次のとおりです

- ・二〇四とときめきチャレンジ増林
- ・十月十日(日)参加者三二五六名
- ・コミ協講演会(震災時の地区体制作り)
- (越谷市交通安全課)
- ・十二月十一日(土)参加者四十六名
- ・視察研修 千葉県「房総のむら」
- ・三月十三日(日)参加者二十三名

## 総務企画委員会

## ふるさと部会



▲10回目のさわやかウォーキング

イベント農体験さわやかウォーキング10月十七日(日)秋晴れの下、色づき始めた木々の紅葉を愛しみながら大聖寺(大相模不動尊)へ。樹齢五百年のタブの大木に迎えられる本道前で住職の話の聞き、元荒川の川手を歩く。対岸の増林の景色を見ながら大成橋を渡る広い道が目の前に飛び込んできた。一ヶ月前の十月初めに開通した東埼玉道路である。今は側道だけの道だが将来は中央が高速道路だと、どんな街に思いつくか側道から左手の道へ入る。見慣れた家並みにはつと細く。体験の内容については知らざれたなかつた大根が抜きである。畑では八月末に播いた大根が見事に育っている。一本の大根の収穫にどれくらいか迷いながら力を入れて抜く子供の手ではなかなか。太いのを捜し抜いて

はみたが長さが...。息を弾ませ、やつと抜いた重い大根を抱えセンターへ着くと、水菜と白菜がさらに手渡される。何回も台風と暑さで野菜の高値が続いていたので何よりこのことみんな嬉しそう。豚汁、火クラブの人達が準備してくださった豚汁にぎり飯に舌づつみしたイベント、ウォーキングでした。



▲ヨイショ!

## ふれあい部会

部会では、農体験として八月・九月に作付けしたじゃがいも、大根が見事に成長し、二回収穫祭が行われ、十一月十四日(土)市民祭の即売では、台風の影響もあり一時間で完売するほどの盛況でした。次回も皆さんの参加をお待ちしています。

## しあわせ部会

・子育てサポート増林8は、昨年十一月十一日から今年三月三日までの間、幼児と保護者二十七組の参加により、わらべ歌・新聞紙遊び・リトミック・絵本とのふれあい・工作等内容豊富に十回講座で開催しました。参加者からはとても良かったとの感想がありました。

・今年五回、自治会館および地区センターで、高齢者とのふれあいを目的に「コミ協サロン」を開催しています。内容は健康に関する講和、会食、ボランティアによる余興、参加者の自慢芸披露などです。

・十六年度は参加人数延べ二百人プラスボランティアで実施しました。

・十一月七日(日)東越谷九丁目自治会館(東越谷七・八・九丁目対象)で行われた講話の内容は、

- ・元氣なおじいちゃん、おばあちゃんになろう!という題名で開催されました。
- 1 おいしく食べられる
- 2 楽しめる遊べる
- 3 気持ちが良い
- 4 自分自身の健康に関心がある
- 5 五つの要素についての話がありました。

皆熱心にメモを取り、笑顔で親睦を深めていました。

・介護事業として施設見学を行いました。なごみの郷の一日研修を二十四名の参加で実施しました。

▲コミ協サロン

## 編集後記

日本国内はもとより、世界中で大きな災害に見舞われた年も去り、桜の開花と共に平和と華やかで美しい年になってほしいものと願っています。又それと共に増林地区コミュニティ推進協議会の重要性も増し、益々充実した活動を...と実感しきり今日このごろです。